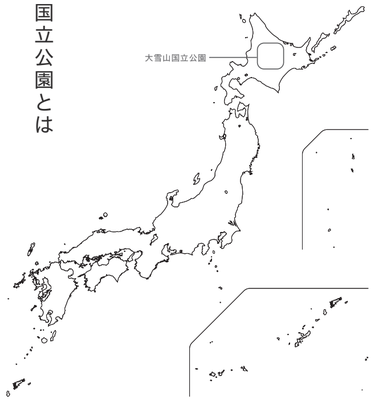
大雪山
国立公園

National Parks of Japan

国立公園とは



国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。
北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで34の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。
是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

特長

北海道の真ん中に広がる大屋根
カムイミンタラ 神々の遊ぶ庭

大雪山国立公園は、北海道の中央部に広がる日本最大の山岳公園です。大雪山は、北海道の最高峰「旭岳」を主峰とする山群で、北海道を代表する石狩川と十勝川の源流地帯を含んでおり、北海道の屋根と称されています。国立公園は大きく、表大雪エリア、十勝岳連峰エリア、東大雪エリアに分けることができます。表大雪エリアは、公園の核心部であり、旭岳を中心とする大雪火山群と、南方に位置する雄大な山上の台地を含み、存在感のある大きな山岳と深い峡谷が人々を圧倒しています。十勝岳連峰エリアは、活火山十勝岳を中央に据える火山群で、山麓の美瑛、上富良野方面から遠く農耕地や樹林越しに望む稜線と谷が織りなす連山は壮観です。東大雪エリアは十勝川流域の地域で、ニペソツ山などの東大雪の山々と深い森、然別湖や糠平湖、十勝三股カルデラなど、独自の魅力を持つ山深い一帯です。山麓では豊富な温泉が湧出しており、国内外から訪れる人々の絶好の観光拠点となっています。

［指定年月日］昭和9年12月4日　［面積］226,764ha
［関係都道府県］北海道

地形　地質　景観

大雪山国立公園は、お鉢カルデラを形成する大雪火山群、活火山の十勝岳を主峰とする十勝岳連峰、然別湖周辺の然別火山群及び日高系の古成層からなる石狩岳連峰の山々で形成されています。活動中の火山は、旭岳（標高2,291m）、十勝岳（標高2,077m）と東大雪丸山火山（標高1,692m）の3山で、特に十勝岳は、近年も度々噴火を繰り返しています。
層雲峡や天人峡の両岸の岩壁は、岩に規則的な割れ目ができ、多角形の柱が連続して立っているように見えます。これは、噴火で噴出した火砕流堆積物がゆっくりと岩石となり冷え固まる際に規則正しく割れが生じる柱状節理という現象と、これらの岩石を河川によって削り取る浸食作用により生まれた風景です。また、火山活動の特徴的な地形としてカルデラ地形があり、近年では、十勝三股の直径10km以上にわたる盆地が、およそ100万年前の火山の大爆発により形成されたカルデラ地形であることが明らかにされました。

火山活動

また、寒冷な気候条件にある大雪山の高山帯には、極圏に見られるような現象もあります。永久凍土は、土壌や岩石が地下深くまで通年凍結しているもので、十勝三股で見られる低所をのぞき、大雪山では標高2,000mの高所に存在しています。

柱状節理（天人峡）

お鉢平

十勝三股の大樹海

永久凍土

羽衣の滝（写真：ひがしかわ観光協会）

取り組み

── パークボランティア活動 ──

大雪山国立公園では、パークボランティアにより自然解説や美化清掃をはじめ、外来生物の防除や希少動植物の密猟・盗掘防止パトロール、登山道や看板の維持補修などが行われ、環境省が進める様々な事業を補助しています。

── 協働型による登山道維持管理 ──

大雪山国立公園では、登山者による踏圧や流水などによる影響を受けて登山道の浸食や洗掘、植生の荒廃などが問題視されています。この広大な山岳地帯において持続可能な自然環境の保護と利用を図るため、関係行政機関のみでなく、山岳会をはじめ登山道に関わる各主体、ボランティアなど、広範な関係者が協働で関わることのできる登山道維持管理体制の仕組みづくりを進めています。

── マイカー規制 ──

大雪山国立公園では、マイカー利用による混雑の緩和と排気ガスなどからの自然環境保護を目的として、9月上旬から10月上旬の紅葉時期に大雪高原温泉及び銀泉台方面への自動車の通行規制を行っています。マイカー規制期間中は専用シャトルバスを運行して、利用者の移動を確保しています。

パークボランティア活動（湿原植生復元）

協働型による登山道維持管理の様子

連絡先一覧

北海道地方環境事務所
〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西2丁目
札幌第1合同庁舎3F
｜TEL｜011-299-1950　｜FAX｜011-736-1234
｜URL｜http://hokkaido.env.go.jp/

上川自然保護官事務所
〒078-1741 北海道上川郡上川町中央町603
｜TEL｜01658-2-2574　｜FAX｜01658-2-2681

東川自然保護官事務所
〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15
｜TEL｜0166-82-2527　｜FAX｜0166-82-5086

上士幌自然保護官事務所
〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33
｜TEL｜01564-2-3337　｜FAX｜01564-2-2933

大雪山国立公園連絡協議会ホームページ
（Facebookで随時情報発信中）
http://daisetsuzan.or.jp

大雪山国立公園サイト
http://www.env.go.jp/park/daisetsu/index.html

火山情報をご確認ください
http://www.jma.go.jp/jp/volcano/map_1.html

環境省
発行者：環境省
発行年：2018年

※ 見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。

植物　動物　生態系

広大な面積を有する大雪山では地形や過酷な気象条件により、多様な植生が形成されています。山麓には針葉樹と広葉樹の広大な樹林帯がみられますが、標高が高くなるに従い、針葉樹林、ダケカンバ林と様相が変化し、さらに森林限界、ハイマツ帯へと推移し、山頂部付近の高山植物群落には日本の高山植物の4割に相当する約250種が確認されています。これらの中には希少種も多く、エゾオヤマノエンドウ、ホソバウルップソウなどの大雪山固有種や、リシリリンドウのような分布の限られた種類も見られます。高山植物の花々で彩られた姿は、まさにアイヌの人々が「カムイミンタラ＝神々の遊ぶ庭」と呼ぶにふさわしい景観と言えます。また、高原の湿地帯には高層湿原が広がっており、湿原特有の植物やわい性化したアカエゾマツなどがみられます。

チョウノスケソウ

ホソバウルップソウ

エゾオヤマノリンドウ

エゾノツガザクラ

ダイセツヒナオトギリ

チングルマなどの群落

多様な環境をもつ大雪山は、その規模の大きさに比例するように生物多様性に富んでいます。広大な大雪山の森林には、ヒグマをはじめ、エゾシカ、エゾオコジョ、エゾリスなどのほ乳類や、国の天然記念物のシマフクロウ、クマゲラなど多くの鳥類が棲息し、幻の鳥ミユビゲラも確認されています。魚類ではサケ科のオショロコマが生息しており、然別湖だけに生息する亜種はミヤベイワナと呼ばれています。高山帯では、ギンザンマシコやホシガラスなどの繁殖が確認されています。
大雪山と限られた地域でしか見られない動物も多く、北海道の寒冷な岩場に生息地が限られるエゾナキウサギや、大雪山にしか生息しない高山蝶ウスバキチョウ、アサヒヒョウモンなどは、氷河期に大陸から渡ってきた後、温暖化により寒冷な高山だけに残された「遺存種」と呼ばれる動物です。

シマフクロウ

ギンザンマシコ

ノゴマ

ヒグマ

エゾシカ

ウスバキチョウ

大雪山国立公園の山々の多くは標高2,000m前後ですが、緯度が高いため本州の3,000m級に匹敵する厳しい高山環境を有し、高山植物帯の広がりは実に雄大です。山頂部では、真夏でも大きな雪渓・雪田が残り、多彩な高山植物が華麗なお花畑をつくり出しています。山麓部にはエゾマツ・トドマツを主体とした亜寒帯の針葉樹林が広がり、その見事な森林景観は、この地域に欠くことのできない要素となっています。
多様性に富んだ自然環境は、ヒグマ・エゾシカなどの大型ほ乳類をはじめ、氷河期の生き残りといわれるエゾナキウサギ、ウスバキチョウなどの高山蝶やクマゲラ・シマフクロウなどの希少な野生動植物の生息地となっています。
このように希少な動植物が生息している大雪山は、高山帯に広く国の特別天然記念物の指定を受けるほか、十勝川源流域を含む一帯が原生自然環境保全地域にも指定されています。

高山植物群落

エゾナキウサギ

沼ノ原からトムラウシ山

文化

── アイヌ文化の伝承 ──

毎年夏になると、層雲峡温泉では「層雲峡温泉峡谷火まつり」が開催されています。この峡谷火まつりでは、アイヌの伝統的な儀式であるフクロウ神事、音色に合わせて舞うアイヌ民族舞踊など、古くから北海道の先住民であるアイヌの人々の間で伝えられ引き継がれてきたアイヌ文化に触れることができます。峡谷に響き渡る火まつり太鼓や花火も見どころです。

── 開拓時代の遺産 ──

上士幌町の市街地からぬかびら源泉郷、十勝三股の山岳森林地帯を南北に貫く国道273号に並行して、昭和62年に廃線になった旧国鉄士幌線のコンクリート造りのアーチ橋が多く残されています。これらの高架橋は、今は東大雪の開拓の歴史を伝える近代産業遺産として、その姿を見せています。中でもタウシュベツ川に架かるタウシュベツ川橋梁はダム湖である糠平湖の水かさが増える6月頃から10月頃にかけて湖底に沈んでいきます。水かさが減る1月頃から凍結した湖面に再び姿を現すため「幻の橋」といわれています。これらの橋は、「旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群」として平成13年10月に北海道遺産に選定されました。

層雲峡温泉峡谷火まつり（写真：層雲峡観光協会）

タウシュベツ川橋梁

国立公園の利用上のマナー

多くの方に楽しく利用していただくために、
国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、
次のことを守ってください。

- ゴミを捨てないでください
- 花や植物を採らないでください
- 野生動物に餌を与えないでください
- 動物を獲らないでください
- 歩行中禁煙
- たき火は指定の場所で行いましょう

大雪山の山々の春は遅く、秋が早く訪れます。山頂部には真夏でも大きな雪渓・雪田が残り、9月中旬には初冠雪を迎えるため、いわゆる登山シーズンは6月下旬から9月末までです。多くの方に楽しく利用していただくために、国立公園内では次のことを守って下さい。

- ヒグマに近づかないよう注意しましょう。
- 大雪山グレードを確認しましょう。
  http://www.daisetsuzan.or.jp/enjoy/grade/
- 大雪山の自然の厳しさを肝に銘じましょう。
- 登山計画書を出しましょう。
- 遊歩道や登山道から外れないでください。
- 登山時はストックに保護キャップを着けましょう。
  携帯トイレを持参しましょう。

01 旭岳温泉 C4

旭岳の麓に広がる標高約1,050mの温泉街です。層雲峡温泉とともに、表大雪エリアの登山基地となっています。冬は、日本で一番長いシーズン（11月-5月上旬）スキーが楽しめる場所としても全国的に有名です。

02 旭岳 C3

ロープウェイ姿見駅を降りると、噴煙を盛んに上げる旭岳の火口が正面に見えます。ここから姿見の池を経由して、北海道最高峰の旭岳山頂まで約2.5時間のコースが整備されています。

03 望岳台 A6

白金温泉から車道が通じており、手軽に行ける望岳台は、正面に噴煙を上げる十勝岳を望むことができる展望地点です。一帯の砂礫地にはイワブクロなどが多く見られます。

04 十勝岳 B6

現在も火山活動を続ける十勝岳の山頂周辺には、大正火口やグランド火口など多くの火口があります。登山に際しては、常に火山情報を確認しましょう。

05 トムラウシ山 C5

トムラウシ山は表大雪と東大雪の境に位置する標高2,141mの山で、「大雪の奥座敷」と呼ばれています。遭難事故も発生しているため、山行には慎重な計画が必要です。

06 黒岳 D3

ロープウェイ・リフトを乗り継ぎ、約1時間の登山で黒岳山頂に到着します。赤岳、白雲岳、北鎮岳、凌雲岳など大雪山の広がりを感じられます。

07 層雲峡温泉 D3

旭川から網走・帯広方面を結ぶ国道沿線に位置し、北海道周遊観光の主要な拠点となる道北最大の温泉地として、また表大雪の登山基地としても知られます。

08 大雪高原温泉・沼めぐり D4

大雪高原温泉を起点として沼を巡る登山コースには、ヒグマ監視スタッフが常駐しています。登山口のヒグマ情報センターで、利用ルールのレクチャーを受けてから出発しましょう。

09 10 ぬかびら源泉郷、糠平湖 F7 F6

ぬかびら源泉郷は東大雪エリアの利用拠点であり、源泉かけ流しの温泉として親しまれています。また、糠平湖は昭和31年に完成した発電用ダムによる人造湖で、東大雪の山々をバックにした湖水の風景が景勝地として評価されています。

11 ニペソツ山 E6

東大雪に位置する標高2,013mの急峻な山容を持つ独立峰です。溶岩の積み重なった岩場にエゾナキウサギが生息し、時折岩の隙間から姿を現すことがあります。

12 然別湖 E8

大雪山国立公園の唯一の自然湖であり、森林に囲まれた自然性の高い湖沼景観を楽しむことができます。オショロコマの亜種であるミヤベイワナは、火山が川をせき止めてできたといわれる然別湖にのみ生息しています。

Information 施設案内

層雲峡ビジターセンター D3

〒078-1701
北海道上川郡上川町層雲峡
[TEL] 01658-9-4400
[開館時間] 8:00-17:30（6月-10月）
9:00-17:00（11月-5月）
[休館日] 11月-5月の毎週月曜日
（祝日の場合は翌日）、
12月31日-1月5日

旭岳ビジターセンター C3

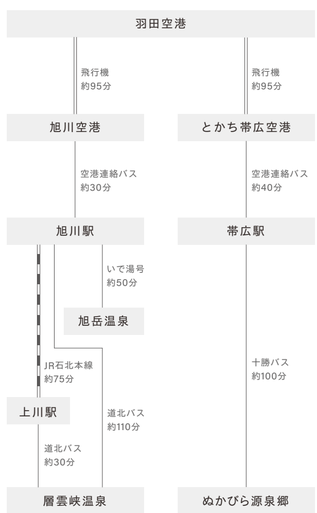
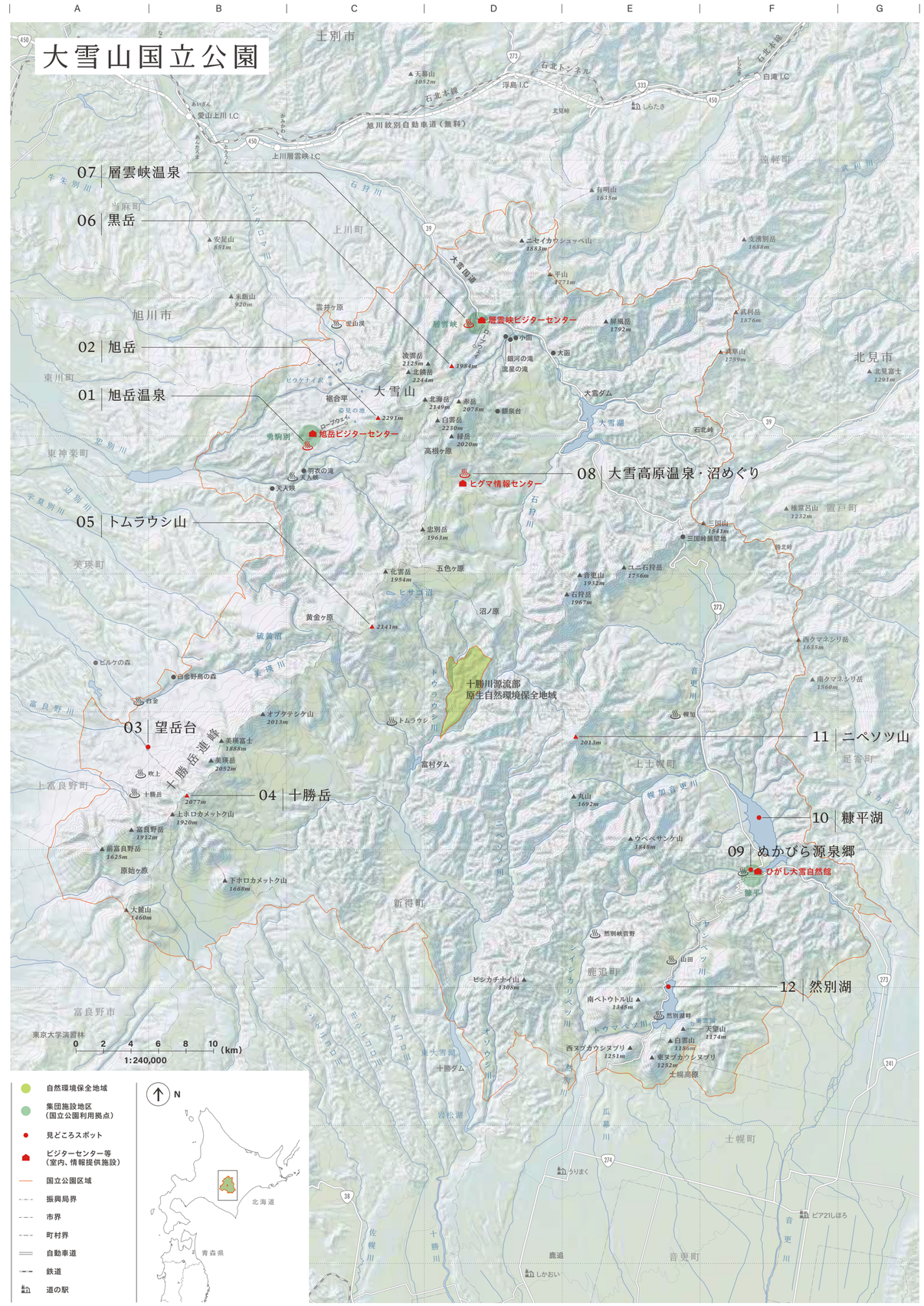
〒071-0372
北海道上川郡東川町旭岳温泉
[TEL] 0166-97-2153
[開館時間] 9:00-17:00
[休館日] 12月31日-1月5日

ひがし大雪自然館 F7

〒080-1403
北海道河東郡上士幌町字
ぬかびら源泉郷48の2
[TEL] 01564-4-2323
[開館時間] 9:00-17:00
[休館日] 毎週水曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日-1月5日

※開館時間などについて詳しくは各施設にお問い合わせください。

Access 交通アクセス



※アクセスルートは一例です。各区間の所要時間は目安です。
詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。